

4 魚介類

(1) 調査日

夏季：平成 18 年 8 月 28～29 日

秋季：平成 18 年 10 月 12～13 日

(2) 調査方法

ブロック 1 およびブロック 2 において、投網・タモ網・刺し網・カニカゴ・延縄を用いて捕獲を行った。仕掛け漁具である刺し網，カニカゴ，延縄については，夕方に仕掛けて一晩設置し，約 20 時間後の翌朝に回収した。

ブロック 3 においては開放的な水面がないため，タモ網とカニカゴによる捕獲を行った。

(3) 調査地点

水域を環境的特性により 3 つのブロックに区分し，調査を行った。

調査地点を図 4-14 に示し，調査地点の概要を表 4-12 に示した。

表 4-12 調査地点の概要

調査方法	番号	調査地の概要
投網・タモ網・刺し網・カニカゴ・延縄	ブロック 1	藪牟田池の東側で水際部に植生がほとんど見られない開放的な水域
投網・タモ網・刺し網・カニカゴ・延縄	ブロック 2	泥炭による浮き島が点在し，水際部には植生が見られる水域
タモ網とカニカゴ	ブロック 3	藪牟田池の西に位置し，ヤナギ類などの植生が見られる水域とそこに流入する水路

(4) 調査結果

調査の結果、13種の魚介類の生息が確認された（表 4-13参照）。内訳は魚類8種、エビ・カニ類2種、貝類3種であった。

ブロック別に見ると、最も多くの種が出現したのはブロック3の9種であり、次いでブロック2の6種、ブロック1の3種であった。これは、ブロック3が最も環境の多様性に富んでいるためと考えられる。

出現した魚類については、移入種であるゲンゴロウブナ・カムルチー・ブルーギル・オオクチバスの4種と在来種であるウナギ・ギンブナ・ドジョウ・トウヨシノボリの4種であった。ブロック1およびブロック2において最も多く出現したのはブルーギルであった。ブロック3においてはドジョウが多く出現した。

保護上重要な種はドジョウ、マルタニシが確認された（図 4-15、図 4-16参照）。ドジョウは鹿児島県レッドデータブックで、またマルタニシは、鹿児島県レッドデータブック及び環境省レッドデータブックでいずれも準絶滅危惧に指定されている種である。

表 4-13 魚介類現地調査結果

綱名	目名	科名	種名	ブロック1		ブロック2		ブロック3		
				夏	秋	夏	秋	夏	秋	
条鰭	ウナギ	ウナギ	ウナギ		1					
		コイ	ギンブナ			3	3			
	ゲンゴロウブナ				1					
	ドジョウ		ドジョウ					30-50	30-50	
	スズキ	タイワンドジョウ	カムルチー			1	1		1	
		サンフィッシュ	ブルーギル		10-30	10-30	30-50	50以上	1	3
			オオクチバス		2		1	10-30		
ハゼ		トウヨシノボリ					1	10-30	10-30	
甲殻	十脚	テナガエビ	スジエビ					30-50	10-30	
		サワガニ	サワガニ						1	
腹足	申腹足	タニシ	マルタニシ					1	10以下	
	基眼	モノアラガイ	ヒメモノアラガイ					10以下		
		サカマキガイ	サカマキガイ					10-30		
				種 数 合 計						
3綱	6目	11科	13種	2	2	5	5	7	6	
				3		6		9		

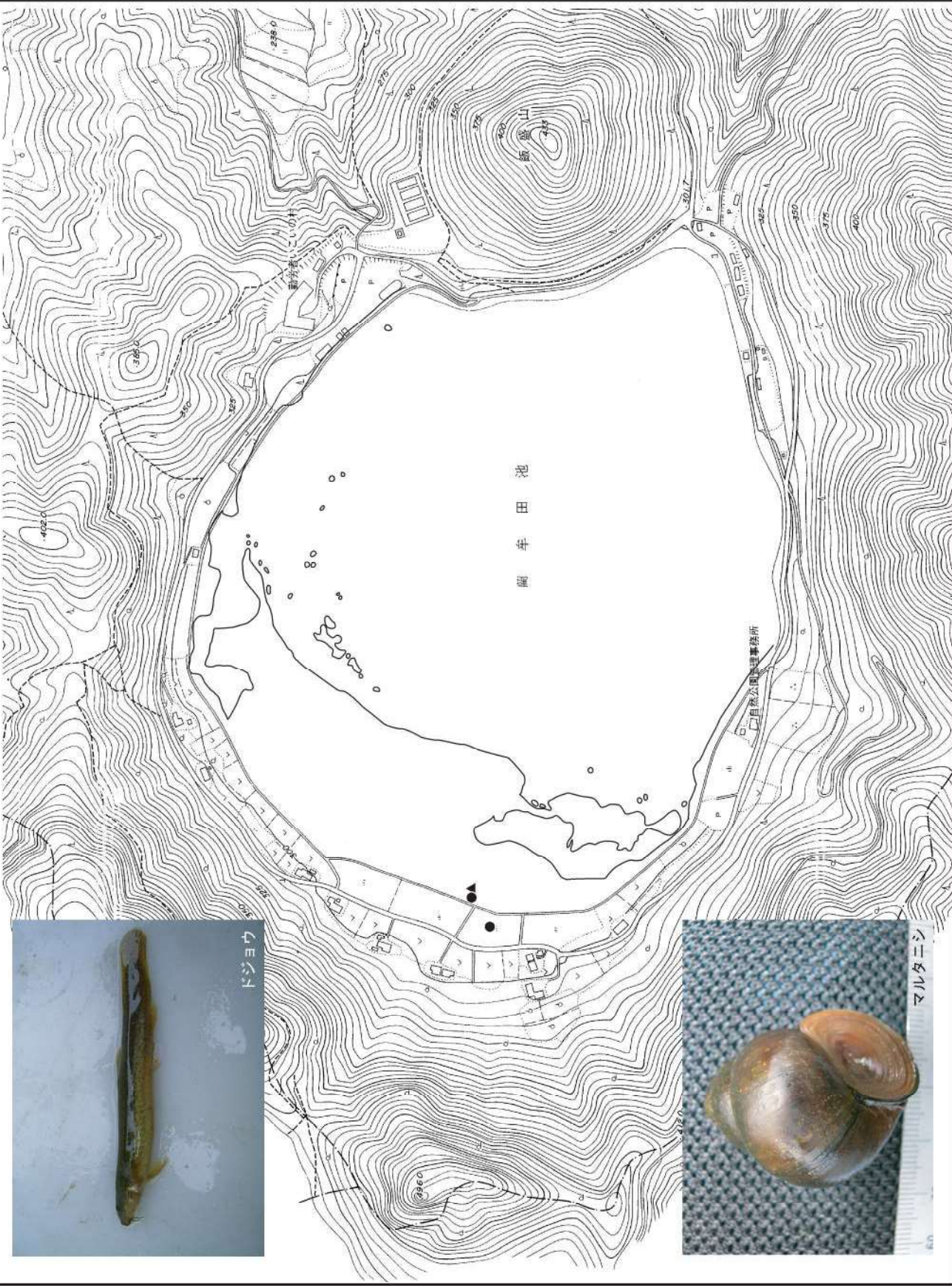
備考) 数字は個体数を示す



ドジョウ



マルタニシ



- 凡 例
- ドジョウ
 - ▲ マルタニシ

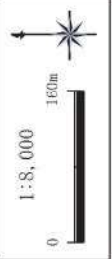


図4-15 保護上重要な種の確認地点 魚介類 (夏調査)

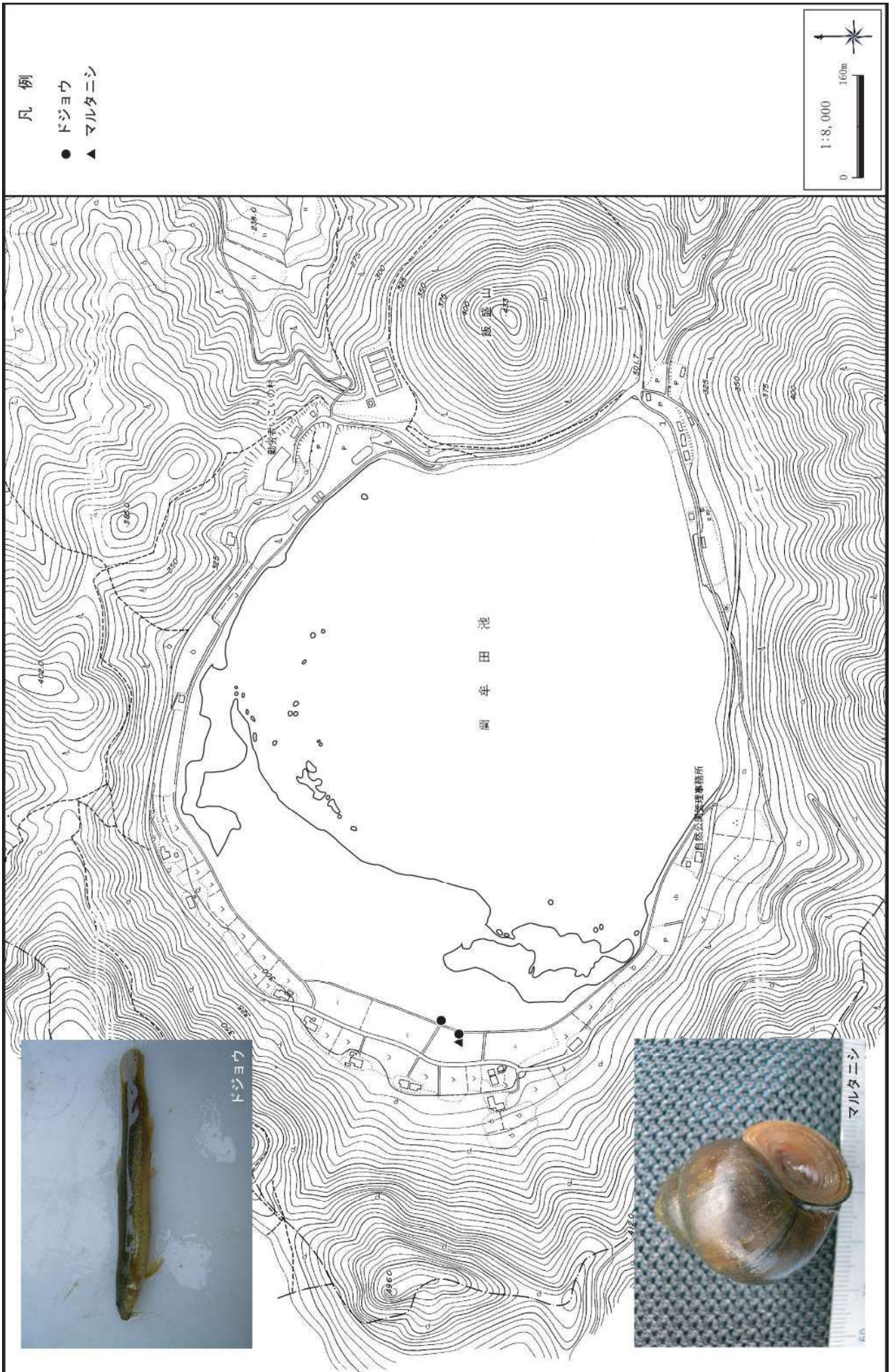


図4-16 保護上重要な種の確認地点 魚介類 (秋調査)

(5) 考察

現地調査及び文献調査で確認された魚介類を整理して表 4-14に示した。

藪牟田池において、これまでに文献などに記録が残っている魚類は 14 種である。1980 年代まではオイカワ、カワムツ、メダカ、ドンコ等の在来淡水魚の記録があるが、1984 年頃にオオクチバスが確認されて以降、2000 年代にはこれらの在来淡水魚の記録が全くなく、すでに絶滅した可能性が高い。

今回の調査では、国外移入種であるカムルチー、ブルーギル、オオクチバスの 3 種と、国内移入種であるゲンゴロウブナが捕獲されている。かつて生息していた在来淡水魚が姿を消した理由は不明であるが、魚食性の強い外来魚の定着による捕食圧の上昇や、餌や利用空間の競合などにより急速に減少したものと考えられる。

また、環境省（2005, 2006）によると、オオクチバスやブルーギルの胃内容物からベッコウトンボをはじめとするトンボ類が多数見つかっており、魚類のみならず、水生生物全般に影響を及ぼしているものと考えられる。

オオクチバスとブルーギルについては、在来生態系への影響が著しいことから国においては平成 17 年に特定外来生物に指定され、無許可での移動や飼育が禁止されている。鹿児島県においては、平成 7 年に内水面漁業調整規則において移動が禁じられている。また、薩摩川内市においても、平成 18 年から再放流を禁じるリリース禁止条例を施行し、藪牟田池の湖畔に外来魚回収ボックスを設置して再放流の防止を呼びかけている。

表 4-14 現地調査及び文献調査の結果

綱名	目名	科名	種名	現地調査	文献調査	文献番号	指定区分
条鱈	ウナギ	ウナギ	ウナギ	●	●	2,4	
		コイ	コイ	コイ		●	2
	ギンブナ		ギンブナ	●	●	2,3,4,5	
	ゲンゴロウブナ		ゲンゴロウブナ	●			
	オイカワ		オイカワ		●	2,3	
	カワムツ		カワムツ		●	2	
	ドジョウ		ドジョウ	●			鹿準
	ナマズ	ナマズ	アリアケギバチ		●	1	鹿準, 環準
	ダツ	メダカ	メダカ		●	2,3	鹿準, 環II
	スズキ	タイワンドジョウ	カムルチー	●	●	5	
			サンフィッシュ	ブルーギル	●	●	4,5
		ドンコ	オオクチバス	●	●	3,4,5,6	
			ドンコ		●	2,3	
			ハゼ	ゴクラクハゼ		●	3
ウキゴリ	トウヨシノボリ	●	●	3			
	ウキゴリ		●	2			
甲殻	十脚	テナガエビ	スジエビ	●			
		サワガニ	サワガニ	●			
腹足	中腹足	タニシ	マルタニシ	●			鹿準, 環準
	基眼	モノアラガイ	ヒメモノアラガイ	●			
		サカマキガイ	サカマキガイ	●			
合 計							
3綱	8目	14科	21種	13種	14種	4種	

※保護上重要な種の抽出の基となる法律及び文献

- ・鹿児島県編（2003）鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編—鹿児島県レッドデータブック— 財団法人鹿児島県環境技術協会
- ・環境省編（2000）改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック— 脊椎動物編, 財団法人自然環境研究センター

※指定区分の凡例

- 鹿準 : 鹿児島県レッドデータブックに準絶滅危惧として記載されている種
- 環II : 環境省レッドデータブックに絶滅危惧II類として記載されている種
- 環準 : 環境省レッドデータブックに準絶滅危惧として記載されている種

《参考文献》

- 1 今井貞彦（1964）鹿児島県の魚類 鹿児島島の自然, pp205-221 鹿児島県理科教育協会
- 2 平嶺広紀ら（1982）自然環境の教材化に関する研究—蘭牟田池— 研究収録第13集, pp1-24. 鹿児島県教育センター
- 3 環境省（1979）第2回自然環境保全基礎調査 湖沼調査報告書
- 4 環境省（2005）平成17年度グリーンワーカー事業
- 5 環境省（2006）平成17年度オオクチバス等防除モデル事業（蘭牟田池防除モデル事業）
- 6 鹿児島県（2000）鹿児島県水産技術のあゆみ